



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/211
即時解禁
2012年6月8日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事、 危機管理ツールの強化はじめ更なる改革を通じた金融システムの強化を呼びかけ

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、危機管理ツールと金融システムのアーキテクチャを全般的に強化するなど、国際金融システムの改革にむけて一層の措置を採るよう求めた。同氏は、危機発生から5年という歳月が経過し、重要な施策は採られたものの、より安全な金融システムの構築という目標は達成されていないと指摘した。

ラガルド氏は、南ドイツ新聞、アトランティック・カウンシル、およびローランド・ベルガー社共催でニューヨークにて開催された「リーダーによる年次討論会」において、「我々はまだ最終目標からは大きく遠く離れている」と述べた。「日ごとに深刻度が増す中、我々は岐路に立っている。政策担当者は、これから5年・10年のみならず、今後数週間・数ヶ月先を勘案し、この仕事を終わらせるための明確なロードマップを策定してこれに沿って歩みを進めなければならない」

同専務理事はさらに、金融部門について政策担当者が次に採るべき措置は「危機のダメージを及ぼすサイクルを打破する上で不可欠となるだろう」と述べ、これには政策を決定しそれを実行していくという政治経済的側面も含むとした。さらに「現在、金融システムの健全性の回復を重視すべきだ。これなくしては、今後も弱い銀行が成長を抑えつけることになるだろう」との認識を示した。

こうした中、欧州の銀行の修復が優先課題ではあるが、今日の世界は相互関連性が高いことから、欧州の銀行の健全性の回復は全ての人々にとり重要だと述べた。ラガルド氏は「欧州の銀行の修復の中心は欧州である。すなわち、より統合が進んだ欧州が重要であり、決してその逆ではない」として、単一の欧州金融市場には、より一体化が進んだ枠組みが必要だと指摘した。

「金融とソブリンのリスクの間の負のサイクルを打破するには、国境を越えリスクをより共有する銀行システムが無ければならない」と述べたラガルド氏は、財政統合の深化は「このような取り組みと共になければならない」と付け加えた。

さらに、金融システムのアーキテクチャについて、「規制の改善、監督強化、および適切な民間の動機付け」を通し強化しなければならないと指摘した。「システムの規模、複雑性、そして相互関連性を踏まえるならば、各機関、市場そして国境をまたいだ、一貫性、連携と協調が必要だ」

規制面では大きな進歩を遂げたものの「合意事項を実施に移し、未だ合意に至っていない点については歩みを一段と進めなければならない」と同氏は述べた。しかし、規制面での前進は解決策の一部でしかなく、監督当局の権限の強化に向け更なる措置を講じる必要があると述べた。

さらに同氏は、金融機関自らも、解決策の追求と実施という責務を果たす上で今以上の役割を担うべきだと述べた。「これは、質の高い内部ガバナンスシステムの構築を意味する」とし、税制は金融部門のリスク選好の動機付けに大きな影響を及ぼすと指摘した。「税制についても、金融部門の過度のリスク選好姿勢を抑え歳入に対し適切な貢献が確実にできるよう、さらなる役割を果たすべきだと考えている。これまで2~3年間で、一部の国で銀行に対する課税が導入されるなど、ある程度の前進は見られたものの、金融部門への課税を見ると、IMFがG20に対し報告書を提出してから約2年が経つが課題は山積している」

これまで数年に渡り、金融システムの強化に向け、IMFは加盟国、金融安定理事会、およびG20などと協議を重ね、同部門に対する取り組みを強化してきたが、ラガルド氏は、今後もその方針を継続することを明らかにした。

「金融システムに対する我々の究極の目標は何だろうか。それは、手に負えないものではなく成長を支えるシステム、間違いなく利益は生み出すものの、安定性の犠牲によるものではないシステムの構築である」